令和８年度岐阜県統計グラフコンクール審査結果について

○主　催　　岐阜県

○後　援　　岐阜新聞社、岐阜放送、岐阜県教育委員会、岐阜県小中学校教育研究会

○目的等　本県における統計知識の普及と統計の表現技術の研さんを目的に、統計グラフ全国コンクール推薦作品の選考を兼ねて毎年開催

○グラフの課題及び評価のポイント

統計グラフ全国コンクールに準じる

○応募作品数の推移

（単位：作品）

	第1部 (小 1･2)	第2部 (小 3･4)	第3部 (小 5･6)	第4部 (中学)	第5部 (小中学生パソコン統計グラフ)	第6部 (高校生以上)	計
令和6年度	88	98	85	46	32	13	362
令和7年度	55	81	54	47	20	5	262
令和8年度	44	78	51	36	16	19	244

○入賞区分内訳

（単位：作品）

	岐阜県 知事賞	岐阜新聞社・ 岐阜放送賞	入選	佳作	奨励賞	合計
第１部	1	1	2	3	7	14
第２部	1	1	3	4	7	16
第３部	1	1	3	3	5	13
第４部	1	1	2	3	2	9
第５部	1	1	2	2	2	8
第６部	-	-	-	1	1	2
合　計	5	5	12	16	24	62

令和８年度岐阜県統計グラフコンクール作品評

総　　評

今年度の岐阜県統計グラフコンクールには､小学校１年生から高校生まで、各年代の発達の段階に応じた多彩で意欲的な作品が寄せられました。いずれの作品からも､身近な生活の中から課題を見いだし、自ら観察・調査を行い、得られたデータを整理・分析して、その結果を分かりやすく伝えようとする姿勢がうかがわれました。

低学年の作品には、日常の中で生まれた素朴な疑問や興味を大切にし、楽しみながら調べたことを生き生きと表現した作品が多く見られました。学年が進むにつれて、調査対象や視点が広がるとともに、データの比較や傾向の読み取り、結果から導き出した考察にも深まりが見られました。特に、自ら設定した課題に対して粘り強く調査を重ね、得られた事実を基に自分なりの考えを導き出している作品には、探究することの意義と学びの確かな積み重ねが感じられました。

また、グラフの種類や構成、色彩、文字の大きさや配置などを工夫し、統計資料としての正確さと、見る人に伝えるための表現力を兼ね備えた作品も数多くありました。統計グラフは、単に数字を図に置き換えるものではなく、事実を客観的に捉え、そこから意味を見いだし、自らの考えを他者と共有するための重要な表現手段です。

今回の作品制作を通して培われた、課題を発見する力、データを読み解く力、そして自分の考えを表現する力は、これからの学びや社会生活において大きな財産となることでしょう。今後も身近な事象に目を向け､「なぜだろう」という問いを大切にし、統計を通して新たな発見や考察を深めていくことを期待します。

各部の審査から、印象に残ったことを紹介します。

〈第１部：小学１・２年生〉

学校や身近な日常生活の中で感じた疑問や興味から始まる課題が多くありました。アンケートや調査の結果が伝わりやすいように、棒グラフや円グラフなど読み手を意識して工夫した作品が多くありました。

〈第２部：小学３・４年生〉

学習や生活の中で見つけた課題について、自分たちで調査対象を選びアンケートを実施するなど、主体的に集めたデータを工夫して表現した作品が多くありました。

〈第３部：小学５・６年生〉
身近な課題から社会的な課題まで幅広く取り上げ、自ら調査して集めたデータを多角的に分析し、将来を見据えながら課題解決に向けた考察を深めた作品が多く見られました。

〈第４部：中学生〉
地域や社会が抱える諸問題について、自らの疑問や問題意識を基に課題を設定し、統計資料や調査結果を活用して多面的に分析するとともに、自分の生活や将来につなげて考察した作品が多く見られました。

〈第５部：小中学生パソコン統計グラフ〉
地域や社会に関わる課題について、統計資料やアンケート結果を ICT を活用して整理・分析し、多様なグラフを効果的に用いながら説得力のある考察を行った作品が目立ちました。

〈第６部：高校生以上〉
身近な疑問や関心事を探究的な視点で捉え、統計資料や調査結果を活用しながら課題について理解を深め、自分なりの考えや見方をまとめた作品が多く見られました。

【グラフの選択・作成について】
・低学年は、学校で学習する時期や発達の段階を踏まえながら、伝えたいことにふさわしいグラフを選びましょう。
・グラフの目盛りに数値や単位の記入もれが見られました。最後にもう一度見直しましょう。
【構成・レイアウトについて】
・自分の主張したいことがよく伝わるようなタイトルを考えましょう。それに合わせて設問の表現も工夫してみましょう。
・他の人に見てもらうことを考え、情報量、グラフの大きさ、形、色使い、配置にも気を配りましょう。
【その他】
・「応募作品の規格」や「応募上の注意」をよく確認しましょう。特に、外から資料を得た場合は、出所を忘れず記入しましょう。
・第三者が作成した著作物の無断使用は法律で禁止されています。インターネット上にあるマークやキャラクター、写真等をそのまま引用・転載することは法律違反となることがありますので注意しましょう。